

6 月の天候の特徴

1 6月の気象

(1) 6月といえばやはり「梅雨」に代表されます。梅雨は、偏西風の影響を受ける日本、韓国、中国など東アジアだけにみられる現象で、日本では昔から「五月雨」とか「つゆ」とか呼ばれ、「秋雨」または「秋りん」と並んだ長雨の季節現象です。梅雨は、春から夏へと季節が移り変わる期間に北海道地方を除く日本の各地域で起こり、雨や曇りの日が多く現れます。この季節は、日本付近を覆う大陸の高気圧に代わって、日本の南海上から暖かい太平洋高気圧が強まってきます。その際、北のオホーツク海高気圧と太平洋高気圧の境目にある梅雨前線が北上していくために、雨の降りやすい地域も南から順番に北上していきます。梅雨前線の活動が活発化すると大雨が降りやすくなります。特に、非常に湿った暖かい空気が、停滞している梅雨前線に連続して流れ込むと、比較的狭い範囲で強い雨が長時間連続して降り続く集中豪雨が発生し、災害をもたらすことがあります。また、梅雨は年によって期間の長短遅速がありますし、梅雨前線の活動が弱い年には空梅雨となり、盛夏期にかけて水不足が起こります。四国地方の梅雨入りの平年日は6月4日（昨年6月8日）となっています。

昨年は活動が活発になった梅雨前線による大雨のため、長野県、鹿児島県を中心に九州、山陰、近畿および北陸地方などで土砂災害や浸水害が発生し、「平成18年7月豪雨」と命名されたことは、記憶に新しいところです。

(2) 愛媛県における6月の気象災害

右表は、気象庁の統計による昭和20(1945)年～平成18(2006)年における愛媛県内で6月に発生した災害を原因別に回数表にしたものです。そのほとんどが大雨・強雨と濃霧となっています。その他、強風、ひょう、雷にも注意が必要です。

原因	回数
大雨・強雨	35
濃霧	23
ひょう	1
強風	5
長雨	1
赤潮	1
雷	1
合計	67

注：大雨と濃霧が共存の場合大雨でカウント

2 気象用語の解説 = 雨

(1) 雨の強さ

- ・ **弱い雨** 地面が濡れる程度 【1時間に3mm未満の強さの雨。小雨を含む】
- ・ **やや強い雨** ザーザーと降り、地面一面に水溜りができる 【1時間に10mm以上20mm未満の雨】
- ・ **強い雨** 土砂降りとなり、傘をさしていても濡れる 【1時間に20mm以上30mm未満の雨】
- ・ **激しい雨** バケツをひっくり返したように降り、道路が川のようになる 【1時間30mm以上50mm未満】
- ・ **非常に激しい雨** 滝のように降り、水しぶきで、あたり一面が白っぽくなる
【1時間50mm以上80mm未満の雨】
- ・ **猛烈な雨** 息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる 【1時間に80mm以上の雨】
- ・ **小雨** 数時間続いても雨量が1mmに達しないくらいの雨
- ・ **大雨** 大雨注意報基準以上の雨
- ・ **豪雨** 著しい災害が発生した顕著な大雨現象
- ・ **霧雨** 微少な雨滴（直径0.5mm未満）による弱い雨
- ・ **長雨** 数日以上続く雨の天気

(2) 大雨に関する気象注意報、気象警報の発表基準

気象台では、大雨の恐れがある場合、大雨注意報、大雨警報を発表して注意・警戒を呼びかけています。発表に当たっては、平地と山地別に1・3・24時間雨量で基準を決めています（次ページ参照）。

3 ワンポイントメモ = 「土砂災害警戒情報」

6月1日から、愛媛県（砂防課）と松山地方気象台は共同して、新たに「土砂災害警戒情報」を発表することとしました。土砂災害警戒情報は、県下に大雨警報が発表されている状況下で、大雨により土砂災害の危険度が高まったときに市町名を特定して発表する情報で、市町の長が避難勧告等を適時適切に行えるよう、また、住民が自主避難の判断等に利用できることを目的としたものです。

愛媛県の大雨注意報、大雨警報発表基準

平成 16 年 6 月 1 日現在 松山地方気象台

注警報の種類	要素	細分区域名		基準			
		一次	二次				
大雨注意報	1 時間 降水量	東予	東予東部	平地	30mm	RT	60mm
			東予西部	山地	30mm	RT	70mm
		中予		平地	30mm	RT	60mm
		南予	南予北部	山地	30mm	RT	70mm
	3 時間 降水量	東予	東予東部	平地	50mm		
			東予西部	山地	80mm		
		中予		平地	50mm		
		南予	南予北部	山地	80mm		
	24 時間 降水量	東予	東予東部	平地	100mm		
			東予西部	山地	150mm		
		中予		平地	100mm		
		南予	南予北部	山地	150mm		
大雨警報	1 時間 降水量	東予	東予東部	平地	50mm	RT	90mm
			東予西部	山地	60mm	RT	110mm
		中予		平地	50mm	RT	90mm
		南予	南予北部	山地	60mm	RT	110mm
	3 時間 降水量	東予	東予東部	平地	100mm		
			東予西部	山地	150mm		
		中予		平地	100mm		
		南予	南予北部	山地	150mm		
	24 時間 降水量	東予	東予東部	平地	200mm		
			東予西部	山地	350mm		
		中予		平地	200mm		
		南予	南予北部	山地	350mm		

注 1 : R T とは、積算雨量のことです。

注 2 : 標高がおおむね 200m までの地域を「平地」、400m 以上の地域（高縄半島付近、久万高原町付近を除く）を「山地」とします